

気 *Kyokushin Karate* 2011.7 武

◇港支部ホームページアドレス◇
<http://karateman.jp>

志田道場 六本木・新橋・田町 師範 志田清

夏季昇級昇段審査会のお知らせ

◎日時 2011年8月7日(日) 13時～

◎会場 極真会館 六本木道場

〒106-0032 東京都港区六本木4-9-5 ISOビル8F
TEL03-3459-9998(問い合わせ用)

●審査の申し込み締め切り日8月4日(木)

●六本木・新橋道場追加審査は行いません

注) 本部登録を済ませていない方・不備で再提出の方、新年度武道共済申し込みを済ませていない方は8月4日(木)までに師範・指導員に提出して下さい。

注) 昇級審査受審資格 合宿参加規定回数が変更になりました。
○黄帯→緑帯 1回 ○緑帯→茶帯 1回 ○茶帯→黒帯 1回

あまり稽古が出来ていないからといって躊躇している方もいると思いますが、まだ審査会まで時間はあります。皆さん頑張ってください。

東北地震支援物資提供者様へ

今回、被災地への支援物資のご提供をいただいた志田道場の皆さん大変ありがとうございました。

(水360ℓ、ラジオ7個、乾パン5個、トイレトペーパー80ロール)
被災者の方々から感謝の言葉をいただきました事をご報告いたします。
4月30日(土)に志田道場を代表し日向先生、野津さん、増井さん、志田の4名で福島県福島市あづま運動公園へ寄付してまいりました。

※港カップ収益金の一部を飲料水購入とさせていただきます。
※宮城県仙台方面はメディア情報を考慮し福島へ変更いたしました。

あづま運動公園では約700名(被災時3000名)の避難所です。沿岸在住の地震・津波被害と原発被害による被災者の方が避難されている施設です。日向先生友人の野津さんは愛犬の秋田犬「帝王」を連れ、動物と触れ合う事で被災者の皆様を元気づけていらっしゃいました。(ワサオに似ていると評判でした)日向先生、増井さんは現地ボランティアの方々の炊き出しのお手伝いをされました。

○志田道場支援者リスト

藤井様、望月様、山本様、小柳様、高田様、山村様、松下様、前田様、田畑様、紅林様、小倉様、菊池様、佐野様、児玉様、寺嶋様、平野様、山田様、織茂様、吉川様、及川様、平野様、根津様、下山様、ボルジャー様、ベンジャミン様、ご協力、大変に感謝いたします。



お友達ご紹介キャンペーン

☆こんな時代だからこそ、大切なご友人と
武道稽古で心と身体を強くしましょう！！

Kyokushin Karate Tokyo Jonan Minato Shibu

このチケットで、ご入会者と紹介者の方に空手着を無料進呈いたします。

お友達ご紹介キャンペーン



道着無料チケット



何かを始める事に遅いという事はありません。

夏合宿

今年の合宿は東北地震の影響により、日程・内容を変更し行います。

日程:8月6日(土)～7日(日)

場所:六本木・新橋道場

※夏季審査会同時開催。※受審しない方は試割りコースとなります。

参加費:12,000円(夏季審査会受審料込み)

申込締め切り日:8月4日(木)

合宿スケジュール:8月6日、午前1部稽古、午後2部・3部稽古、納会

8月7日、午前1部稽古、午後審査会※審査会終了解散

皆さんのご参加をまっています！ぜひご参加下さい。



武道家のバイブル「葉隠」

「必死の心になってこそ人生をまっとうできる」

武士道の本質は死ぬことであると知った、生きるか死ぬかの場面に遭遇したなら、早く死ぬほうを選ぶことである。別に子細はない。死を選べば覚悟が定まって、まっすぐに進むことができるからだ。当てがはずれて死ぬのは犬死ではないか、などというのは、上方ふうの打算的な武士である。生か死かの場面では、思いどおりに事が運ぶかどうかはわからない。誰でも生きるほうを好むものだし、そちらに理屈をつけたがるものだ。もし当てがはずれて生き永らえれば、その武士は腰ぬけである。このところがむずかしい。当てがはずれて死んだら、それは犬死であり、ばかをみることになるが、恥にはならない。これが武士道の根本である。毎朝毎夕、死を念頭において、常に死に身になっていれば武士道に自由を得て、一生まちがいがなく職務に励むことができる。

「今の今」

「人として心がけ、修行しなければならぬことは何でしょうか」と問われたとき、どのように答えたらよいものだろうか。それは、この今を心に念じて生きることである。現代人はどうも、心がふらつきやすいように見える。人が生き生きとした顔とは、一心不乱に何かを念じているときのものだ。さまざまな経験を積んでゆくうちに、自然と心のなかに生まれてくるものがある。主君に対して忠、親に対しては孝、武道においては勇氣、その他すべてのことに共通する根本的な思いだ。しかし、これを見つけるのはむずかしい。見つけても、常に持ち続けるのがさらにむずかしい。この今をしっかりと心に念じて生きるとは、生きることである。

「名人も人、われも人」

名人といわれる人についていろいろ見聞し、自分などはとても及ばないと思うのは、ふがないことである。名人も人なら、われも人、なんの劣るところがあるものかと発奮して、しっかり取り組むなら、すでにその道に入ったに等しい。「孔子は十有五にして学に志すといったが、その年齢で学問を志したこと自体が聖人たるゆえんなのだ。あとで修行を重ねて聖人になれたわけではない」と、石田一鼎が申されたことがある。「初発心時弁成正覚」(はじめに志しを立てた時に正しい悟りを得ることができる)という仏教の教えも、まさにこのことを指している。

「修行・精進」「自己啓発」

修行においては、道を極めたと思っ一家をなすのがよくない。精進を積んで、自分なりの見解をもつようになること、それで終わったと早合点してしまうのだ。努力に努力を重ねて基本的なことをきちんと体得し、さらに習熟するよう心がけること。これを一生続けなければならない。自分で何かを発見したからといって、もうこれで充分などと慢心するのはほとんどないことだ。これもまだだ、これもまだだと思っ、どうしたら道にかなうかと一生かけて模索し、修行するべきである。こうした鍛練の中にこそ道というものがあるんだ。

「盛衰」

盛衰によってその人の善悪を論じることはできない。盛衰とは自然の成り行きであり、善悪は人の道である。ただわかりやすい教訓として、盛衰をあたかもその人の善悪の結果のように言っているだけの事だ。